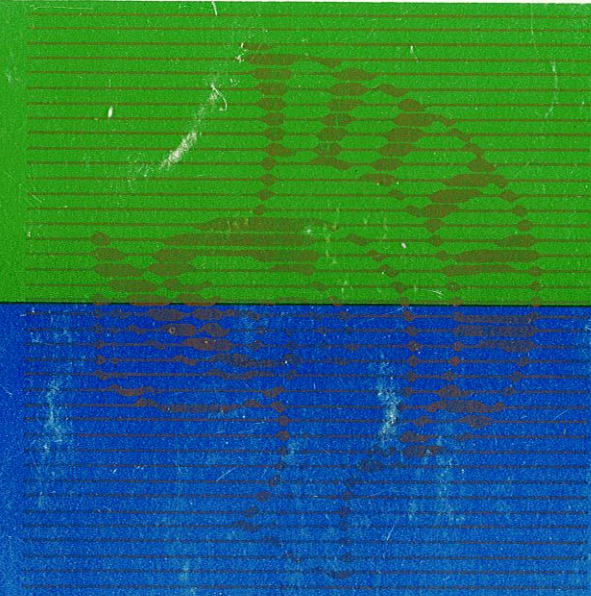


第11回東西四大学合唱演奏会



第11回

東西四大学合唱演奏会

1962年6月23日(土) <6:30 P.M.>

京都会館第一ホール

1962年6月24日(日) <6:30 P.M.>

大阪フェスティバルホール



PROGRAM

I エール交歓

II 関西学院グリークラブ

Sea Chanty

Mobile Bay

Blow Ye Winds

Rio Grande

The Eddystone Light

Across The Western Ocean

Haul Away Joe

指揮 今岡典夫

伴奏 辻敬夫

III 慶応義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団

Schubert 男声合唱曲集

Hymne op. 154

Nachthelle op. 34

Der Gondelfahrer op. 28

Nachtgesang im Malde op. 139

指揮 木下保

伴奏 井上直幸

休

PROGRAM

IV 早稲田大学グリークラブ

指揮 石井 歆

組曲 「曠野を行く」

梶 良郎 詩

石井 歆 曲

V 同志社グリークラブ

指揮 林 節

伴奏 鷺淵紹子

F. Liszt 作曲

男声合唱のためのミサ曲 ハ短調

Kyrie

Gloria

Credo

Sanctus, Benedictus

Agnus Dei, Donanobis

VI 合同演奏

指揮 福永陽一郎

Listen to de Lambs

Nathaniel Dett 作曲

◀ 京都公演 関学 慶応 早稲田 同志社
大阪公演 同志社 早稲田 慶応 関学 ▶

Sea Chanty

故郷を離れ、辛苦と孤独と郷愁に襲われながらも、波と戦う男の力強い美しさを捨て難い水夫達は、このやるせない気持ちを歌として唱いあげました。やがて19世紀後半、帆船から汽船へと移り変わった頃、歌は水夫から離れ我々の夢や希望をかなえてくれる人類共有の財産、すなわち、どの大陸の民謡にも属さない陸と陸との間の“海の民謡”として、今日ひろく歌われています。この“海の民謡”には、主帆をあげる時のうた、帆や旗や帆桁の上げ降しの時の歌、キャプスタンの時のうた、最後に一日の激しい仕事が終わる、ゆっくりくつろいでいる時の歌と、四つの種類がありますが、それらの代表的なものを Celius Dougherty の編曲により六曲選んでお送りします。

Mobile Bay

“この船は、ボロ船、ひもじい船、どうして俺達は居られようか”と航海を終えて、のん気に、船艙にたまった水をくみ出しながら陽気に歌われます。

Blow ye Winds

“風よ吹け、帆いっぱい、風は、俺達をみる間に外洋に運んでしまう、風よ吹け、俺達はもう遠く海に乗り出して来ているのだ、それにつれて風も強くなって来た、デッキで見張りが伸びているかと思うと、船室では元気に歌っている、風よ吹け、これで航海も終り、故郷へ帰れるのだ”と楽しい航海を歌った曲です。

Fio Grande

メキシコ戦争の頃、一旗あげようと、アメリカの船乗りがリオ・グランデの海岸で密輸をした時のうたです。カリフォルニアのゴールド・ラッシュとも関係がある歌だといわれています。

The Eddystone Light

“僕のオヤジはエディストン燈台の燈台守で、ある美しい夜に人魚と結婚した。やがて、イルカとアカダイと僕の三人の子供が生まれました。”とおどけて、楽しく歌われます。

Across The Western Ocean

黄金を求めて、故郷を捨て、父母や兄弟達と別れ、限りなく航海する舟乗りの生活を、抒情的に歌います。

Haul Away Joe!

網を引くジョーが、手が離れそうになって苦しんでいるのを励ましてうたう歌。帆船が方向をかえようとしたり、風向きが変わったのに、同じ方向に進もうとする時、帆についた網を強く引張らなければなりません。これは若い水夫にとっては、最も辛く最も大切な役目なのです。

味の交響楽



イカリソース株式会社

Schubert 男声合唱曲集

Franz Peter Schubert (1797~1828) は交響曲、声楽曲の分野のみならず合唱曲の分野に於ても多大な功績を残した人である。しかし数十曲に及ぶ合唱曲も、我国では、その作品は彼の他の作品ほど多くは演奏されないし、レコードも余り出されていないので、多くの人々に知られるに至っていない。

一口に言って合唱曲と声楽曲との違いは、前者の Melodie 又は音楽的起伏が後者のそれに比較して大きいということであり、従って当然合唱曲の構成は声楽曲に較べて、大きいわけである。彼は男声曲の作曲に当っても、その合唱の特色を巧みに生かし多声手法による量的な効果を見事に示している。

男声合唱曲のもつ美しさ、力強さを表現し、しかも美しい Melodie を更に強めるような伴奏を持つ彼の数々の作品は、男声合唱の真髓に近いものを示していると言えよう。

Hymne (讃歌) op. 154 (1828)

Schubert の合唱曲には宗教的内容を持つものが多いが Schmedel の詩に作曲したこの曲もその一つである。冒頭の Adagio の部分では極めて濃厚な宗教的雰囲気の中に神への祈りを歌うが、中間部 un poco piu mosso の部分で「我等に力と信仰の勇気を与え給え」と激しい願いを力強く歌い再び最初のテーマに戻って永遠の静けさの中に曲を終る。原曲は男声合唱と Quartett の為に書かれているが、バランスの関係で Doppelquartett によって演奏する。

Nachthelle (夜明り) op. 34 (1826)

Seidl の詩を用いて作曲したものの中の一つである。極めて軽快なピアノの連打音にのせた美しい Tenor Solo に導かれて、夜の透明さ、夜の輝きを詠った曲。彼の作品には軽快な Rysm にのせた、Jazz を想わせる様な洒落たものがみられるが、これもその一つである。非常に巧みな転調が何回か見られる。

Der Gondelfahrer (ゴンドラを漕ぐ人) op. 28 (1824)

今回演奏の四曲中、最もポピュラーなもの。最近、大学のグリークラブで何回か採り上げられ、又ウィーン少年合唱団のレコード等で良く知られた曲である。漣を想わせるピアノ伴奏にのせて、夜とゴンドラとの調和をうたっている。

Nachtgesang im Walde (森の夜の歌) op. 139 (1827)

Seidl の詩に作曲したものである。四曲中最も大きな構成をもち、力強さと牧歌的雰囲気と、そして恵みの夜に対する森の男の喜びを、Melodie を変え Rysm を変え早さを変えて表現している。

歌うオルガン誕生!

それはミキトレムラントです

ミキトレムラントは電動オルガンですが、他社製にはない特殊装置を施し、トレモロ装置を出せるようしていますので、普通オルガンでは出来ない音の変化が得られるほか種々の特長を持っています。

三木楽器

大阪市南区心斎橋筋そごう北側
電話 大阪 06 2600・2601番



ミキピアノ・オルガン
カタログお送りします

ミキピアノ・オルガン

(実用新案特許出願済)
(意匠登録出願中)

定価 35,000円

曠野を行く

この曲は石井敏氏がこの度早稲田大学グリークラブのために作曲されたもので、現代社会に生活する人間を曠野をさすらう若者にたとえた、雄大なスケールを持つ曲であります。詩はその曲想に合わせて梶良郎氏が作詩されたものです。詩と曲とが同時に作られるといった形式は氏の「枯木と太陽の歌」でもみられますが「枯木……」に比べて、無伴奏であること、動的でもあること等で好対称をなしています。

曠 野 を ゆ く 梶 良 郎・作

丘を越えてゆく 若者 何処へ 今日も……	陽は降り 憩い求め 若者は佇みぬ 緑深き 広き野辺に 花赤く 微笑みて…… 若者の 黒い瞳 果しなき 山脈を…… 限りなき 青き空に 小鳥唄いて……	小鳥は懐しの 歎びを 笛の音に あわせ唄う 楽しき 心の歌 笛の音にあわせて…… 淡き想い 夢見て 若者は 懐しの笛を吹く…… ああ 光をうけて唄う 楽しき心の歌	雨風は 吹き狂い 川流れ 道崩れ 若者は 宿もとめ 広き野辺を さまよいぬ 雨激く 風荒び 稲妻は 閃きて 樹は倒れ 草なびき 吹き狂いて…… (嵐吹き荒びて 若者は 果しなき 曠野と闘いて…)
歌うたう 若者は ただ独り さすらいで 何時の日か 故郷へ	(若者は 希望を抱きて 果しなき曠野の道をゆく) ああ懐し故郷 ああ幼き日の想い出 永遠に 生きて	懐し昔の想い出 優しく夢見て 時 遙かに流れる…… 丘を越えてゆく 若者 何処へ 今日も……	おお 嵐吹き荒ぶ ああ 行手見えず 迷いて 若者道を急ぐ……
陽は昇り 若者は 丘越えて うるわしの 野を越える 嶺高き 山越えた 若者は 広き野辺に 希望もとめ 限りなき 空仰ぐ	希望を抱きて 今日も うるわし大地を 夢見む 希望を抱きて 今日も 何処へ 青き牧場 光あふれ 笛にあわせ 鳥は唄う	陽は暮れて 夜は更ぬ 若者よ 道急げ 雲低く 垂れこめて 暖かき 風吹きぬ 若者よ 道急げ 道急げ 若者よ、 (若者よ 道をば急げよ 急げ……)	嵐は去りて 静かに 月影は 青く輝き 若者は 空を仰ぎて 祈る…… 希望を抱きて 若者はゆく 果なき丘越え 若者はゆく
(丘を越え 野を越え 若者 今日も……)	(光あふる 青き牧場 鳥は唄い…… 青き牧場 光あふれ 笛にあわせ 鳥は唄う) あの輝きわたる 青き牧場に	丘も山も 遠くかすみ 川は溢れ 橋は流れ 道は障り 行手見えず 雨は激く 風は荒ぶ 道を急げ 早く急げ 急げ 早く……	丘を越えてゆく 若者 何処へ 今日も…… 希望を求めて、

「男声合唱のためのミサ曲 ハ短調」 F. Liszt 作曲

Kyrie

Gloria

Credo

Sanctus, Benedictus

Agnus Dei, Dona nobis

フランツ・リスト (1811~1886) は、ピアノの巨匠として、また交響詩の開拓者として、19世紀の最も有名な作曲家であるが、晩年はカトリックの聖職者としてすごしただけに、宗教合唱曲にも多くの立派な作品を残している。
男声合唱のためのミサ曲ハ短調は、パイプオルガンの伴奏をともなったもので、通常のミサ典礼文によっているが、終りの部分のアニユス・ディとドナ・ノビスが区別されているのが普通と違い、更に終結の力強いアーメンコーラスが、華麗な音楽効果を生み出している。
和声学的には、ロマン派音楽的手法が多くみとめられるが、合唱楽法としては、声楽的なポリフォニーの原理が強調されており、グレゴリア聖歌の旋律が使用されている点からも、中世的な神秘感にあふれていて、近代の宗教曲としては個性的な美しさを持っている。
尚、同志社グリークラブの使用楽譜は、現在絶版になっている「ブライトコック・ウント・ヘルテル社」の原譜 (神田正美氏所有) で、いうまでもなく本邦初演である。



さわやかなのどこし
最新・最高の設備が生むおいしいビール
タカラビール
寶 酒 造 株 式 会 社

夏とカレーライス……

少しカライめのをたっぷり
ライスにかけて召しあがれ
暑さなんかには負けません

固型ハウス印カレー
ハウス食品工業株式会社

チースヒタミルク入 75g 30円・130g 50円

Listen to de Lambs

聴け 子羊たちの声を

黒人霊歌のモチーフによる無伴奏讃歌形式の宗教曲

作曲 ナサニエル・デット

男声四部合唱のための新編 福永陽一郎

四大学フェスティバルに想う

合同合唱を指揮するに当って

福 永 陽一郎

四大学の会の合同演奏を指揮するのは、今度で三度目になります。第二回と第四回、いずれも、東京のときでした。関西では、ですから、初めてですが、わたくしにとって、東京と関西とは、ほとんど差違感がなく、どちらにいても、同じ住みごちなので、とくに関西で初めてだからという感慨はありません。

さて、第十一回の四大学の合同演奏についての、下相談があったのは、今年も始ったばかり、まだ松の内のことでした。

東西四大学というものの、四人の指揮者と四人のマネージャーたちは、第十一回ともなると、もう旧知のあいだからであり、仲間うちのような親しさで、つきあいをしているのですが、けれどもやはり、バックに、それぞれ第一級を誇る合唱団を代表しているという、一種の気迫のようなものがあり、相談のための部屋は、なごやかな中に、ピーンと張った、ぎりぎりまでふくらんだ、表面張力を感じないでは、いられませんでした。

その、快よい、張りつめた空気に、わたくしはあらためて、どうして、東西四大学の会が、日本でも類のない、素晴らしい内容の音楽会になるのかを、悟らされたような気がしました。

四つに組む、という言葉がありますが、この、友情と対抗意識が絶妙なバランスで保たれている東西四大学は、他のジョイントコンサート——二大学や六大学やの——に見られぬ、言葉では表現出来ぬ力強い雰囲気をつくり出します。それは、四大学合唱団とも、いずれがいずれとも云いきれぬワザを持っているからでもありまじうが、しかし、四つに組むという、数の上からの、押し合い引き合う力の配合が、やはり、この特別の妙味をつくりだすのではないのでしょうか。

ところで、その最初の下相談の時の、一致した意見で、音楽的に前年より後退したものにしたくない、ということがありました。昨年十周年の会では、木下先生が、非常な努力をされて成果をあげられましたが、そのあとだけに、かなりしっかりしたことをしないと、聞きおとりがするだろうとは、誰しも想像することだったのでしよう。

そこで、わたくしは、曲数を、うんと少なくすることを提案しました。合同演奏も第一にした考え方から云うと、各校の持ちステージを軽くし「合同演奏のために集ったのだ」と、みんなが考えてくれる事が理想ですが、まだ事態はそこまで進んでいませんし、いままでの例をひいても、各合唱団は各自のステージに、ほとんどの力を集中します。それはそれで勿論よろしいので、わたくしも、必ずしも、合同第一主義ではありません。だから、曲数を少なくし、合同演奏のための労力を軽減しながら、なおかつ、音楽的密度を高めようということに、意見がまとまりました。

結論的には、黒人霊歌一曲ということになったのですが、わたくしのレパートリーのなかで、大合唱によってうたわれることが、効果を倍増するような曲だと、前々から考えていたものを、やらせてもらうことにしました。わたくしの、音楽演奏の理想は、演奏するものと、きいている方々とは、同じように満足するようなものを、創造することにあります。結果的にそういうことになるように、努力をかけたむける心づもりでおります。

しあわせなことに、現在、どの合唱団にも親しい友人がいて、四つ共、気を楽しんで練習が出来たことは、有難いことだと思っております。このような楽しい仕事のなかから、わたくしが、平常から心に抱いております、学生合唱のあり方の、正しいと信じている方向に、一脈でも、光明が見出されるようでしたら、それに過ぎる喜びは、ないものと思っております。

各大学の学生指揮者、マネージャー、それにステージを共にするメンバー諸君全員に、深い感謝を捧げつつ、筆を止めます。

VICK'S VAPORUB
EUCALYPTUS
CINNAMON
MINT
Cough Drops

ヴァイックス
コフドロップ

コーラスのまえ 仕事のあい間
楽しいデイトのまえに
ヴァイックス ドロップを
一粒おふくみ下さい
あなたの声をキメ細かにみがきあげ
なめらかで美しい
ヴァイックス ヴォイスをつくります

声
せき
のどに

■レギュラー(青)——チェリー(赤)——レモン(黄)——オレンジ(橙)——……個入各60円・缶入各150円
ヴァイックス社製品 発売元 阪急共栄物産株式会社

「四連への反感と羨望」

多 田 武 彦

林 雄 一 郎

私の「四連」への関心は私の合唱歴が「四連」の成長過程とほぼ同じ時期にあったせいしか決して浅くない。桜が散って際の本が鮮かな薄緑に彩づく頃になると、今年もそろそろやって来たなと思いつく。美しい女に出遭った男が、その美しさに反感と羨望を抱くように、私は、私が京大合唱団の指揮者であった頃、創設当時の「四連」に反感と羨望を抱いたものだ。技術的水準の高さもさることながら、駅頭で始まるエール交歓を皮切りに和気あいあいの友好的雰囲気があった、同時に良い意味での対抗意識がみなぎり、こうした雰囲気が聴衆との間にも往来するといった空気に私は反感と羨望を抱いたものだ。

従って、私の二人の弟が夫々同志社大学と関西学院大学に入った時も、私は可成り強い態度で夫々のグリークラブに入ることすすめ、二人とも、各グリーでの生活や「四連」等その他数々のスケジュールの中で随分明るい性格を身につけることが出来たようだ。

私は今ではもう反感や羨望を持つ年頃でもなくなったので、日常の仕事の一切を忘れて「四連」に耳を傾けることにしているが、ここ一、二年の「四連」には技術一辺倒の空気が感じられてならない。それが四連の将来にとって大切なことで、且メンバーの多数の意見によって支えられているのなら、私など口をさしはさむ余地はないが、私の「四連」への反感と羨望が最近消えて了いそうになるのが何かしら心残りだ。

東西四大学合唱演奏会が近年合唱界に於ける重要な年中行事の一つに数えられる催しとなったことは、誠に御同慶に堪えない。

東西を代表する四つの大学男声合唱団が、あらゆる熱情を打ち込んで催されるこの演奏会には元来四大学各合唱団の親睦とか、各々の切磋琢磨による技術的交流とか色々大きな意義があった。然し乍ら今日では、この催しが、これら東西四大学の男声合唱団相互の問題だけでなく寧ろ、全日本の大学男声合唱団に対する或る意味での指導的な要因を帯びつつあることを見逃がすことは出来ない。この演奏会の在り方が、全日本合唱コンクールとは又違った意味で我が国の大学男声合唱の発展に重要な役割を演じているからである。

それにも拘らず、この催しが東京と大阪、京都で一年交代でしか開かれぬのは本当に惜しいことである。私は、前述の意味に於てもこの催しを全国的に推挙してほしいものだと思願する。東京と大阪、京都は隔年で辛抱するとしても、とりあえず東京か大阪京都以外でも毎年異ったどこかの都市で催すことが出来れば、東西四大学合唱演奏会の発展にも一段の進歩となるのではないだろうか。

LONDON STEREO 三周年記念発表

マリオ・デル・モナコ「イタリア民謡集」

・永遠に君を愛す	・初恋の小舟	・お前のところに帰りたい
・五月の一夜	・グラナータ	・太陽の土地
・オ・ソレ・ミオ	・君に告げよ	・秋
・泣かないでお前	・ボジリコの漁夫	・帰れ、ソレントへ

エルネスト・ニチェリ指揮の管弦楽団

ステレオは ロンドン <発売元> キングレコード 豪華ジャケット付<30cm LPステレオ> ¥2,000

MARIO DEL MONACO SONGS OF ITALY

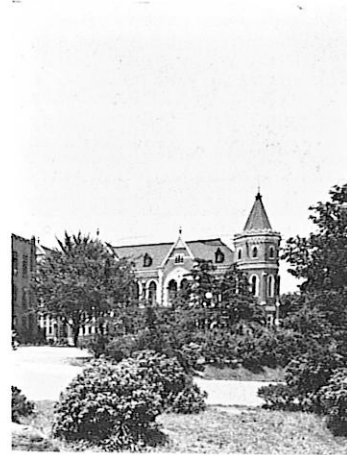


慶応ワグネル・ソサィエティー 男声合唱団

慶応義塾塾歌

富田 正文・作詞
信時 潔・作曲

- | | | |
|--|---|--|
| 1. 見よ風に鳴る我が旗を
新潮寄するあかつきの
嵐の中にはためきて
文化の護りたからかに
貫き樹てし誇りあり
樹てんかなこの旗を
強く雄々しく樹てんかな
ああ わが義塾
慶応 慶応 慶応 | 2. 往け限りなきこの道を
究めていよ遠くとも
わが手に執れる炬火は
叡智の光あきらかに
ゆくて正しく照すなり
往かんかなこの道を
遠く遙けく往かんかな
ああ わが義塾
慶応 慶応 慶応 | 3. 起て日はめぐる丘の上
春秋ふかめゆるぎなき
学びの城を承け嗣ぎて
執る筆かざすわが額の
徽章の誉世に布かん
生きんかなこの丘に
高く新たに生きんかな
ああ わが義塾
慶応 慶応 慶応 |
|--|---|--|



ワグネル、夜話

ワグネル＝世紀の偉大な音楽家リヒャルトワグナーを御存知の事と思います。これワグネルの由来であります。部員の中には、数のうちですから、ワグネル（ワグナーフォーゲル会）とまちがえて入部し今ではこのワグネルからぬけ出せない奴もいる様です。

新入生歓迎会＝これは新部員に早くワグネルに慣れてもらう為の会であります。一年生の自己紹介「私は〇〇高校出身〇〇学部、〇〇です。家の商売は洋服屋、もしよろしければ月払いもいたします。これからは学業ばかりでなく色々の道をも勉強したいと思っております」全く大変な奴がはいってきたものです。上級生もこれに応えワグネル用語の解説に精を出す。これまで観察した対女性の傾向と対策等に。男性数人集まれば女性の話 これ世の常？

練習＝「君等は大学生なんだろう？馬鹿みたいに口をあけて」「この歌は応援歌じゃない、それはドドンパ発声だ。アッ、キタナラシイ！」等々これは先生の私達への叱咤。今日歌っているのはその結果です。

演奏旅行＝〇〇慶応よりお菓子のさしいれ、若い女性から、サインして、又来年も来てネ、この時だけ部員はスターの気持になる様です。

定期演奏会＝サア銀ビヤへビール片手に今日の成功を諸先輩と喜び幸福感を味う時、ワグネルに入ってよかったなァと思う。そう天国へ行った様な気持です。

役 員

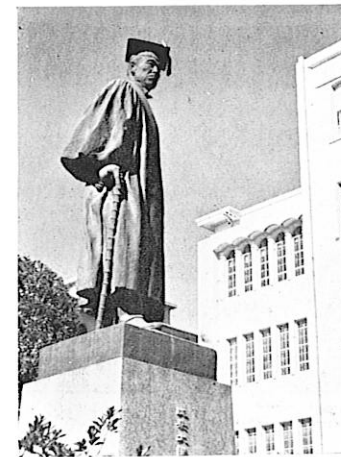
部 長	村 田 武 雄		
顧問指揮者	木 下 保		
常任指揮者	畑 中 良 輔		
責 任 者	田 村 宗 英	指 揮 者	高 城 圭 介
内 事 庶 務	茂 木 朝 之 助	パートリーダー	
外 事 庶 務	鈴 木 信 一 郎	トップテノール	津 下 本 健 一 郎
会 計	岸 弘 市	セカンドテノール	後 藤 卓 郎
マネージャー	久 保 田 奨	バリトン	阿 部 正 昭
"	佐 藤 剛 一	ベース	林 利 昭



早稲田大学グリークラブ

早稲田大学校歌

相馬 御風・詞



- | | | |
|---|---|--|
| 1 都の西北 早稲田の杜に
そびゆるいらかは
我等が母校
我等が日頃の 抱負を知るや
進取の精神 学の独立
現世を忘れぬ 久遠の理想
輝く我等が 行く手を見よや
早稲田 早稲田…… | 2 東西古今の 文化の潮
一つに渦巻く 大島国の
大なる使命を 担いてたてる
我等が行手は 極り知らず
やがても久遠の
理想のかけは
あまねく天下に 輝きしかん
早稲田 早稲田…… | 3 あれみよかしこの常盤の杜は
心の故郷 我等が母校
集り散じて 人は変れど
仰ぐは同じき 理想の光
いざ声そろえて
空もとどろに
我等が母校の名をばたたえん
早稲田 早稲田…… |
|---|---|--|

早稲田大学グリークラブ紹介

私達グリークラブの母体は大正年間にありますが、着実に歩み出したのは戦後のことです。この間幾多の困難を乗り越え、現在早稲田大学文化団体連合の中で最大の規模を持ち、厳格な規律の下に、合唱を通じての音楽芸術追求と共に、部員相互の親交を深め、又集団生活の中から多くのものを学びつつ、人格形成をも目指して、230名の部員が各々有意義な学生生活を送っていることに誇りを持って、勉学のかたわら、毎日練習に励んでおります。

卒業生は270名にも及び、夫々の職場の合唱団で、或いはO.B.の合唱団である稲門グリークラブで活躍しております、ヴォーカルカルテットのボニージャックスもその一員です。

年間の主な行事には、学内式典、定期、送別、第九、東西四大学、東京六大学、等の演奏会、春、夏の演奏旅行、合宿、早稲田祭、合唱コンクール参加と、数多くあり、また、関東各地の学園祭や催しなどにもよく招かれ、私達の合唱がお役に立てばと、飛び回り、親しまれています。

現在、学生合唱の進む方向についてさまざまな議論がされています。単なる楽しみを求めるだけとか、音楽芸術の追求とか、合唱団によってそれぞれの行き方があり、一概にどちらが秀れているとは云いきれませんが、私達グリークラブはようやく一つの方向を決定してこれからの進路にそって進もうとしているのです。

役 員

会 長	五十嵐 新次郎 教授		
顧問	磯部 俊		
ヴォイス・トレーナー	城 須美子		
部 長	大 橋 正 和	演奏旅行マネージャー	高 野 昌 幸
学生指揮者	加 藤 治 信	合宿マネージャー	岡 本 章
内政マネージャー	遠 藤 靖	印刷局	長 岡 義 暦
外政マネージャー	北 村 勝 昭	パート・リーダー	
サブマネージャー	小 梶 勝	1st Tenor	須 山 高
会 計	清 水 実	2nd Tenor	柿 沼 邦
演奏旅行マネージャー	小 坂 隆 三	1st Bass	大 古 殿 宗 三
		2nd Bass	金 井 凱 史



関西学院グリークラブ

関西学院校歌

1. Tune ev'ry heart and ev'ry voice,
Throw ev'ry care a-way;
Let all with one accord rejoice,
In praise of old Kwansei,
In praise of Kwansei Gakuin
In praise of old Kwansei.
Her sons will give, while they shall live,
Banzai, Banzai, Kwansei!
2. Let music rule the fleeting hour,
Let gladness fill the day;
And thrill each heart with all her power,
In praise of old Kwansei
In praise of Kwansei Gakuin
In Praise of old Kwansei.
Her sons will give, while they shall live,
Banzai, Banzai, Kwansei!



関西学院グリークラブ紹介

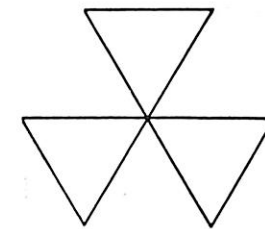
我が関西学院が神戸摩耶の霊峰を背にし瀬戸内海を前にする原田の森にその呱呱の声をあげたのが明治22年の事でした。人格、材幹ともにすぐれたランパス宣教師の厳の如き信仰と、日本の青年に対する友誼の結晶としてキリスト教精神によって建てられたこの学院には創立当初からすでに音楽がありました。この様な環境にあって、我が関西学院グリークラブが生れ育って来ました。日本で最も古い伝統を持つ我が関西学院グリークラブからは幾多の先輩も送り出しています。現在部員数は130名をこえる大合唱団となり私達グリーンメンは、この多くの目的を同じくする友達と日夜練習にはげみ、合唱をするばかりでなく心の合唱をしようと常にメンタルハーモニーを目ざして前進しております。ここで私達グリークラブの一年の活動を紹介してみようことにしましょう。毎年、リサイタルを1月に、大阪、神戸の地において行います。このリサイタルを最後に4年生がグリーを卒業するのです。リサイタルが終るとグリーの新しい年が来るのです。4年間のグリー生活を思い出し、最後のステージとなるリサイタルに力いっぱい大声で歌う4年生の姿は何とも言えない感げきをおぼえます。リサイタルが終り我々にとって最もにが手とする期末試験がやって来ます。でもやはりグリーンメンは互に助け合い1冊のノートで5人ぐらいが勉強します。そして、いやな試験が終ると楽しい春の演奏旅行に出発です。2週間もの長い間寝食を同じくして生活して行く事その中には苦しく又楽しい思い出も多く出て来るのです。この旅行からグリーのよきハーモニーが生まれ、すばらしい合唱となって行くのです。春の旅行が終れば六月の東西四大学です。これは本日の演奏会なので皆様に直接見ていただけることでしょう。この四大学の興奮もさめない7月に入ると今年も又、夏期演奏旅行に出発です。7月1日より21日まで3週間の長旅です。夏の旅行は身心ともにクタクタにつかれています。若さをふるつてこれも征服することでしょう。9月になれば、朝、昼、晩、の食事と寝る以外は全部練習という地獄の様な合宿が待っています。この合宿こそはグリーンメン全員が一同に会して苦勞をともにする場所です。十一月のコンクール目ざし今年も全員はりきって練習することでしょう。十二月に入るとメサイヤ、クリスマスと数多くのプログラムがまわっており、やがて新年となり又リサイタルがやって来ます。この様に毎年同じ様なスケジュールの中にあって、百名以上の部員が団結して進んで行き、新しいグリークラブを作りよき学生生活を送るために互に協力しあって行きます。この様な活動が我々の血となり肉となって生成を助けてくれます。今日の演奏会、私たちは力いっぱい明日への前進の一歩といたします。

役 員

部 長	都 築 昭 郎
指揮者	今 岡 典 夫
マネージャー	猪 原 真 晋 二
"	安 田 元 宣 也
人 事	有 尾 崎 和 男
会 計	小 泉 慶 次 郎
庶 務	横 山 泰 雄 助
"	村 田 堅 之 助
サブ・マネージャー	

サブ・マネージャー	河 野 多 嘉 雄
副 会 計	柴 田 正 裕 義
副 庶 務	戸 宮 村 昌 行 克
"	
パートリーダー	
トップテノール	森 山 哲 至
セカンドテノール	寺 沢 次 郎
バリトン	沖 見 憲 男
ベ ー ス	川 村 輝 夫

同志社グリークラブ



DOSHISHA COLLEGE SONG

Words by W.M.Vories
Music by C.Wilhelm



- 1 One Purpose Doshisha, thy name
Doth signify one lofty aim
To train thy sons in heart and hand
To live for god and native land.
Dear Alma Mater sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' thro' the world we wander far and wide,
Still in our heart thy precepts shall abide.
- 2 Still broader than our Land of birth.
We've learned the oneness of our Earth;
Still higher than selflove we find
The love and service of mankind
Dear Alma Mater sons of thine
Would strive to live the life divine;
That we may with increasing years have stood
For God, for Doshisha and brotherhood

同志社グリークラブ半世紀の歩み

同志社グリークラブは創立58年、現在部員150名という大世帯で、校内演奏は勿論、放送に演奏旅行にと、その目的たる「同志社精神を戴し、メンバー相互のメンタルハーモニー、カレッジライフの向上」に不断の精進を続けております。草分け時代の明治34・5年頃は単に讃美歌を練習するための小グループに過ぎませんでした。明治44年現名誉顧問片桐哲先生がこれを同志社グリークラブと名付け、初代指揮者となり、はじめて組織化されました。大正2年にはプリムローズクラブなる合唱団も出来ていました。昭和16年二つの合唱団は合併して同志社大学男声合唱団となりました。その後戦争の激化と共に音楽活動もままならず、一時は練習もとだえがちとなりましたが、戦後いち早く復活し、同志社グリークラブとして今日に至っています。その間毎年の定期演奏会、東西四大学合唱演奏会、立教大学グリークラブとの交歓会、テレビ、ラジオ放送、春、夏の休暇を利用して行われる演奏旅行に、研究と努力を続けて来ております。かくの如く半世紀に汎る輝やかな歴史の間、約500名の先輩を送り、今尚音楽界に活躍中の内田栄一、湯浅永年、山口隆俊、宅孝二、今西善治郎の諸氏もその中の一人であります。そして今までもいろいろ御指導下さった福永陽一郎先生を技術顧問としてお迎えし、尚一層の前進へと努力しております。

役 員

名 譽 顧 問	片 桐 哲 彰
顧 問	遠 藤 永 陽 一 郎
技 術 顧 問	福 永 陽 一 郎
幹 事 長	和 氣 豊 夫
内 政	丸 山 増 幸
外 政	田 村 康 浩
渉 外	林 田 慎 也

会 計	幸 田 長 明
庶 務	畑 中 宣 彦
副 渉 外	中 野 寿 紀
指 揮 者	林 節

パートリーダー

トップテノール	箸 方 俊 二
セカンドテノール	鳥 井 武 彦
バリトン	真 野 光 長
ベ ー ス	松 永 洋 一

プロフィール

福永陽一郎

1962年神戸に生る。1948年東京音楽学校(現芸大)本科ピアノ科中退。ピアノを井口基成、豊増昇両氏に、指揮法作曲法を近衛秀磨氏に師事。1950年藤原歌劇団に入団。1954年同団常任指揮者となり渡米。1951年畑中良輔氏と共に、「東京コリアーズ」を創設。プロ合唱活動のバイオニアとして多くの功績を残している。また、学生合唱運動にも強い関心を持ち、同志社グリークラブ、西南学院グリークラブ、法政大学混声合唱団などの顧問、常任指揮者をつとめている。

石井 敏

大正10年3月30日東京に生れる。ミュンヘン国立音楽学校を卒業され、ロッシーニ、池内友治郎に師事し、現在桐朋学園大学音楽学部で教鞭を取っておられます。また映画音楽の作曲等、作曲活動も盛んにされております。主な作品には、ピアノソナタ交響的楽章「YMCA」、バレエ曲「バヤデーレ」などですが、男声合唱曲の「枯木と太陽の歌」は昨年の東西四大学合唱演奏会の合同演奏曲として歌われ、聴衆に大きな感銘を与えました。

木下 保

昭和3年東京音楽学校ご卒業後、ドイツ・イタリアに留学され、ネトケ・レーヴェ、バイセンボル両氏に師事され、昭和10年に帰朝された。その後東京音楽学校教授となられ、辞任後はオペラ方面に進出され、近頃では「夕鶴」や「ききみみずきん」で活躍されている。合唱にも力をそそがれて、日本の合唱界にとっては大きな存在となっている。先生の格調高い音楽性と厳格なご指導は私達の心から尊敬し心酔するところである。

井上 道幸

高校・大学時代を通じて桐朋学園に学ばれ、昭和35年に同学園音楽短期大学を卒業された。大島正泰氏に師事し、ピアノに専心、出身地の福岡で第1回のリサイタルを開き楽壇にデビューされ、その後も、各種演奏会にピアノ伴奏者として秀れた技術と音楽性を発揮して将来を嘱望されている新進ピアニストである。ワグネルの男声合唱団とは昭和36年春からのお付き合いであり、よき先輩として我々を導いて下さっている。

辻 敬夫

幼少時ピアノと作曲を、和田亘弘氏に師事され、現在はピアノを豊増昇氏に師事されています。昭和35年度慶応義塾大学商学部を御卒業後現在大正海上火災保険株式会社大阪支社船舶課に勤務されています。

おし 淵 づき 子

昭和28年3月同志社女子大学音楽専攻(ピアノ科)卒業昭和31年8月渡米、オレゴン州ポートランド市 LEWIS AND CLARK COLLEGE 及びニューヨーク州ロチェスター市イーストマン音楽学校にて、オルガンを専攻、昭和34年7月帰国、オルガンを真篠俊雄、秋元道雄、J.S.EVANS、DAVIS CRAIGHEAD の諸氏に師事、ピアノを F.B. CLAPP、遠山ツヤ子の両氏に師事現在同志社女子大学専任講師。

東西四大学の交流

東西四大学合唱演奏会も、今回をもちまして第十一回目を迎える事が出来ました。

戦後、間もない頃第一回目を開催してから早や十一年目となりました。その間多くの苦勞を経て今日の様な盛大な演奏会を開く様になり、先輩諸兄の苦勞もやっと実を結んだと言えるでしょう。

又、この演奏会の発展とともに、四大学の合唱レベルも一段と向上し、日本の合唱界をリードして行く程になりました。

この東西四大学合唱連盟は、慶応、早稲田、関学、同志社と全部私立の大学で構成されておりますが、各校とも立場こそ違え、確固とした建学精神のもとに発展した輝やかな歴史を持つ最も古く、最もよく知られた学校です。

それ故、我々はこの合唱演奏会をもって四大学の交流の場としております。

この演奏会は隔年に東京と、京都・大阪で開催され、いわゆる関東と関西の四校の交歓演奏会形式をとっています。

この演奏会によって我々は多くの他校の同じ年頃の学生と話しあい、合唱することによって、すばらしい収穫を得ることが出来ます。それは、口で言ったり、筆で書いたりすることは出来ないかも知れませんが、お互いの考えを知り、同じ世代の感情をぶつけ合い、各校の特色を知り、我々の知識を大きく広げて行ってくれるのです。

駅のプラットフォームでのエール交歓、演奏会前日のミーティング、そして演奏会、お別れの、ビアパーティーと、三日間あまりの楽しい、四大学合唱祭のスケジュールの中で、我々は若さを力いっぱい出し、思いきり青春の日を楽しみます。

その中に生れる各校との友情、理解、親愛、尊敬とかぎりない多くの収穫があります。

この様な交歓演奏会によって、東西の四つの大学は我々の手によりしっかりと結びつけられて行くのです。

私たち四大学のグリーメンは、今日ここに演奏会を開催し、力いっぱい歌い、全員で合同演奏をし、終って「ごくろうさま!」と、大声であいさつをして、手をしっかりと握り合った時、本当に心からの喜びを味わうことでしょう。そして益々お互いの理解を深め、各校との理解をも深めて、明日からの生活に胸をはって歩んで行く事が出来るでしょう。

最後に、我々はこの演奏会が我々にとって、本当に楽しく有意義な会であるという事を信じます。



1 B ￥15,000



踏 まずにひける電動式
ヤマハオルガン
日本楽器
大阪支店 (21) 8331—9

御 挨 拶

今宵、恒例の東西四大学合唱連盟第11回演奏会を開催するにあたりまして多数の合唱愛好の皆様に御来賓を頂きまして誠に光栄に存じております。

音楽を中心に常に変ることなき誠意と情熱を以て各自の技術を研ぎ相互の技術的精神的交流を目的に、関西で第1回演奏会を開催しまして以来、いつしか11年目を迎えることとなりました。この間幾多の障害に挫傷することなく、東京で又大阪で若人の祭典を催し、その目的に一步一步近づいて行くことが出来ますのも、一重に御熱心な聴衆の皆様の温い御援助の賜と堅く信じております。

合唱の絆によって堅く結ばれたこの東西、四つの大学が、学校のパーソナリティを、夫々の誇る伝統の中に表現出来ますれば、この上もない喜びとなるでしょう。

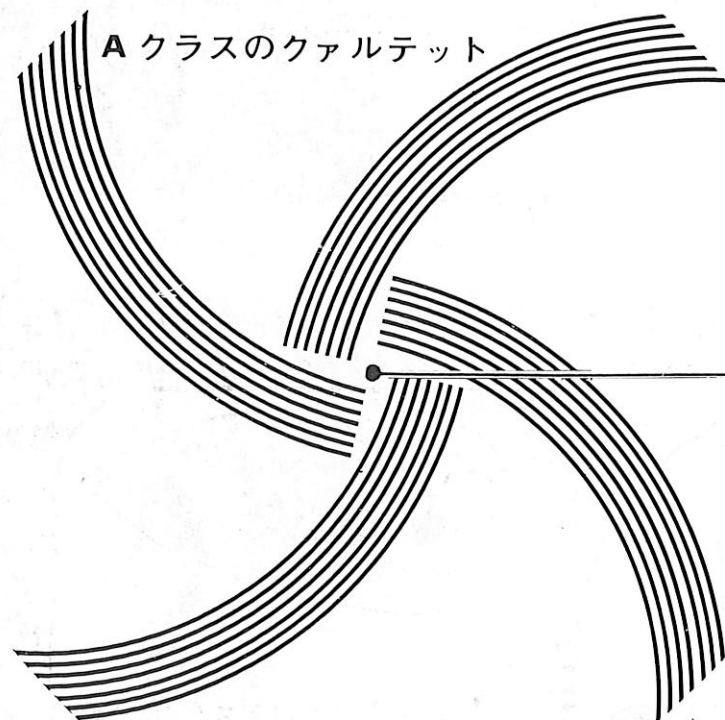
この細な願いが情熱を燃めた若い歌声によって大きく成長しながら、日本合唱界の発展の一端を担うことが出来ますよう、皆様の御指導、御鞭撻をお願い致す次第です。

終りにこの演奏会に御尽力を賜りました各校の諸先輩方に、深く感謝致す次第でございます。

東 西 四 大 学 合 唱 連 盟

委 員	佐 藤 剛 一 (慶 応)
	北 村 勝 昭 (早稲田)
	猪 原 真 作 (関 学)
	林 田 慎 也 (同志社)

A クラスのクァルテット



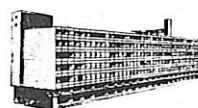
お買物は
4都の大丸へ



大阪・東京
京都・神戸



大阪店/心斎橋



東京店/八重洲口



京都店/四条高倉



神戸店/元町

阪急

大阪・うめだ
TEL (361) 1381



ピアノの真黒な光沢

銀座の品々に みるセンスの輝き

すきのない形に モダンさ

銀座生粋の おしゃれがしのばれる

キイを たたく

その感覚 キラメキで銀座の逸品を

あなたのものに

ピアノのゴージャスな雰囲気

おしゃれのメッカ 銀座の香り

TOKYO銀座の華麗なソナタ

トップモードをかなでてる

《阪急銀座街—3階》

